

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	鹿島市立鹿島小学校
1 前年度 評価結果の概要	①学力の向上・・・「マイプランの達成」「校内研究の充実」などの職員の実践目標については、達成はできつつある。しかし、児童の学力への結びつきが十分にできているとは言えず、児童の学力へどう生かしていくかが課題である。 ②特別支援教育の充実・・・校内の特別支援教室や通級学級や普通学級における個別の支援が必要な児童について、さらに学校全体で共通理解を図り、全職員で支援を絡めていく組織づくりが必要である。 ③心の教育・生徒指導の充実・・・教育相談や心のアンケートで児童の悩みについての把握やケアができてきている。個別支援と学級支援の双方を十分に実践できるような計画づくりを図る。 ④体力の向上・・・食育の重要性については、児童、保護者とも高い意識付けができていて、朝食が喫食できずに登校している児童もあるので、改善を図れるように働きかけていく。また、スポーツチャレンジをきっかけに、運動に楽しんで取り組む児童を増やしていけるような取り組みを計画していく。 ⑤校内研修の充実・・・すべての学級担任が研究授業に取り組み、国語科についての研究推進が実践できた。「主体的に学ぶ児童」について研究を深め、全児童に還元していくような研究としていく。 ⑥新しい学習指導への対応・・・「プロジェクトE」に係る1人1台端末を活用した授業改善を進めてきたが、今後さらに効果的な活用法について、他校の実践を取り入れながら、発展、応用させていく。
2 学校教育目標	いのち輝く 鹿島っ子の育成
3 本年度の重点目標	①学力の向上 ・対策評価シートの活用 ・授業づくり1、2、3の実践 ・学習習慣の確立 ・家庭学習の充実 ②豊かな心の育成 ・いじめの早期発見早期対応 ・心の涵養 ・特別支援教育の充実 ・郷土愛の育成 ③健やかな体づくり ・スポーツチャレンジへの挑戦 ・食育の充実 ・防災意識の向上 ④働き方改革 ・行事や会議の精選 ・業務の効率化 ・笑顔、元気のある教職員

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目									
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	○「鹿島っ子の学び仕様10カ条」で学習習慣が向上したクラスが80%以上になるよう努める。 ○朝の「算数・国語タイム」を設定し、基礎的な計算力や読解力の向上を目指して取り組む児童を80%以上にする。	*「鹿島っ子の学び仕様10カ条」をもとに、月ごとに目標を立て、月末に振り返りを行うことで、習慣化するよう呼びかける。 *算数タイムでは、個人の計算力が高まるよう、毎週ファイルで振り返りできるようにする。 *国語タイムでは、αドリルを用い、解説の際に大切なことばに線を引いたり、問いと結び付けたりして、読解力の向上を目指す。 *2ヶ月に一回「鹿島っ子の学び」を発行し、学力向上に関わる情報発信に努める。	.	.	.	.	.	.
	○児童の学ぶ意欲が高まる授業の実践 (校内研究の充実)	○学習に粘り強く取り組んでいる児童の割合を、昨年度より5ポイント上げる。 ○授業づくりのステップ1・2・3を意識し、「ふりかえり」の項目でステップアップできた教師の割合を80%以上にする。	*単元を通して目指す姿を児童と共通認識し、単元と単元、または単元と実生活の関連付けを行って、次の授業への意欲を持たせる。 *授業づくりのステップを継続して意識できるように、定期的にセルフチェックの時間を設ける。	.	.	.	.	.	.
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○命や人権について考える授業や集会を行い、保護者アンケートの項目「学校は心の教育や命の大切さなどを熱心に指導している」において80%を目指す。	*友達の良い言動を見つけたら葉っぱに記入して貼っていく「やさしさの木」の取り組みを年間通して行う。 *「ふれあい道徳」を行い、保護者も一緒に考えてもらう場面を設定するなど、参加型の授業づくりを行う。	.	.	.	.	.	.
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○定期的に心のアンケートを実施し、「学校が楽しい」と答える児童の割合が80%以上をめざす。	*教育相談週間を設け、児童一人一人の思いを受け止め、気になる児童は特に注意深く見守る。 *Q-Uアンケートで困り感や侵害意識のある児童を把握し、いじめの早期発見、早期解決を図る。	.	.	.	.	.	.
	○目標達成に向けて努力しようとする態度の育成 ○地域・保護者と学校の連携・協働	◎「一事實行」に意識して取り組むことができる児童を80%以上にする。 ○「ふるさと鹿島」を誇りに思うような地域人材の活用。	*1年間毎日続けて取り組むめあてを全児童に決めさせ、振り返り習慣をつけて、自分のめあてを日々意識させる。 *取り組み続けている児童を紹介する場を設け、取り組みが続きたい子へ声かけを行っていく。 *地域人材(保護者を含む)をゲストティーチャーとして授業に生かし、体験学習や環境学習等の充実を目指す(各学年1単元以上)。	.	.	.	.	.	.
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上。	*休み時間の外遊びを促すために、県のスポーツチャレンジを活用する。学校独自の「鹿島っ子チャレンジ」の取組で上位の学級を表彰するなど、児童の意欲を引き出す。	.	.	.	.	.	.
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒80%以上。	*給食センターから講師を招き、食育指導を行う。 *給食週間を設け、児童が食を大切に考える場を作る(食に関するアンケートを2回実施)。	.	.	.	.	.	.
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●よりよい生活習慣を求める児童の育成 ・生活リズム ・挨拶 ・掃除	●100点運動において80点以上の児童70%、語先後礼のあいさつや元気な返事ができる児童、廊下で静かに過ごせる児童が80%以上、無言掃除ができる児童90%以上(前年比+5%)をめざす。	*年3回生活リズム100点運動に取り組み、生活リズムを見直し、いりリズムの定着を図る。 *全校朝会等で生活目標の振り返りや取組例を紹介することで、実践への意識づけを行う。 *毎月の児童会活動(生活委員会)での取り組みや、生徒指導だよりを通して、全児童・職員で共通理解・共通実践していく。	.	.	.	.	.	.
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 ○学校行事の精選と会議の効率化	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○職員アンケートにおいて「業務の効率化が効果的な教育活動につながった」と考える職員80%以上。	*定時退勤日の設定(毎週水曜日)及び確実な実施(定時退勤ボードの活用)。 *教職員の時間外勤務について1ヶ月あたり前年度比3%削減する。 *会議資料の事前配付と提案時間の設定。 *保護者への時間外対応の削減の周知を行う。問題に対しての迅速かつ組織的な対応を心がける。	.	.	.	.	.	.

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○安心・安全な学校づくり	○危機管理意識の高揚	○危機管理マニュアルの周知徹底及び施設設備や教育活動の安全チェックを定期的の実施する。 ○児童の交通事故の防止を目指す。 ○避難訓練及びその事前指導、事後指導を通して児童に危機回避能力を身に付けさせる。	*年3回の避難訓練等の安全指導を強化し、教職員間の危機管理マニュアルを共通理解する。 *防犯ボランティア、警備員、交通指導員との連携を強化し、情報を共有することで児童の安全を確保する。 *登校の自己評価及び定期的な集団下校を実施することで、交通安全への実践的態度を養う。	.	.	.	.	.	.
○特別支援教育の充実	○個に応じた指導、支援の充実	○個別の教育支援計画・指導計画、支援シートの作成100%。 ○特別支援教育に関する専門性の向上。 ○情報共有を定期的に行う。(週1回の連絡会)	*個別の教育支援計画・指導計画、支援シートの作成のための研修を行う。作成する期間を決めて取り組む。 *年2回、特別支援教育に関わる研修会を実施し理解を深める。 *校内支援委員会を中心に、連絡会や学級経営会議でも定期的に情報共有の機会を設ける。	.	.	.	.	.	.

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
----------------	---